

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

株式会社 中部評価センター

②評価調査者研修修了番号

SK2021151

SK2021147

③施設名等

名称：	児童養護施設 宇宙
施設長氏名：	熊澤 裕司
定員：	48名
所在地（都道府県）：	愛知県
所在地（市町村以下）：	一宮市木曾川町黒田八ノ通り187番地
T E L：	0586-84-1660
U R L：	http://www.seisyukai.com
【施設の概要】	
開設年月日	2013/2/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 清修会
職員数 常勤職員：	20名
職員数 非常勤職員：	1名
有資格職員の名称（ア）	管理栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数：	13名
有資格職員の名称（ウ）	児童指導員
上記有資格職員の人数：	4名
有資格職員の名称（エ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	
上記有資格職員の人数：	
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	
施設設備の概要（ア）居室数：	36室
施設設備の概要（イ）設備等：	エレベーター・キッチン・浴室・子育て短期室・中庭の砂場
施設設備の概要（ウ）：	リビング及びダイニング・幼児ほふく室・便所（幼児用舎）・学習室
施設設備の概要（エ）：	調理室・医務室・静養室・心理療法室・親子生活訓練室・地域交流室

④理念・基本方針

★理念

安らぎと調和

★基本方針

- ・礼儀正しく、謙虚な気持ちで行動します。
- ・挫けない心、いつも前を見てゆく心を持ちます。
- ・諸問題を力を合わせて解決します。

⑤施設の特徴的な取組

- 1 子どもの最善の利益を優先した、安心・安全な施設づくり。
- 2 職員の養育力向上をめざした、信頼される施設づくり。
- 3 関係諸機関や地域との連携を密にした、開かれた施設づくり。
- 4 めざす子ども像・職員像
 - ・素直な子・職員
 - ・たくましい子・職員
 - ・心の広い子・職員

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2023/7/7
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2024/2/1
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和2年度（和暦）

⑦総評

◇特に評価が高い点

◆マニュアルに基づいた丁寧な支援

「安全生活マニュアル」や「入所児童の権利擁護」、「施設内虐待防止マニュアル」等の支援マニュアルが整備されており、マニュアルに基づいた子どもへの支援が丁寧に行われている。虐待等権利侵害の防止と早期発見のために、毎月定期的に子どもとの話し合いの場を設けたり、ボランティア団体のメンバーと子どもたちとの個別面談を行う等、常に子どもの声に耳を傾けた支援を行っている。

◆施設全体の明るさ

職員が若く、しがらみなく働ける職場環境となっている。状況に応じた話し合いにより、職員同士の自主性と協調性が引き出されている。話し合っで決めたことを、職員同士が助け合っで解決していくスタイルは、施設の良い雰囲気の原因となっている。職員の明るさが子どもの明るさを誘引し、医療機関の医師からも「みんな元気だね！」との言葉をもらっている。

◆目指す子ども像と職員像

施設では「素直な子・職員」、「たくましい子・職員」、「心の広い子・職員」を目指しており、常に子どもに寄り添いながら、職員自らも学び、養育・支援に当たっている。お互いに目指すところは人として重要な資質であり、「子どもの人格形成」と「職員の資質向上」につながる貴重なものとなっている。

◇改善が望まれる点

◆事業計画の策定

中・長期計画においては未だ検討の段階で、目標や具体的な取組みについて、職員への周知には至っていない。喫緊の課題として、現状5項目がで出されており、具体的な取組みや振り返りについて「事業計画」の中で定期的な確認を行う機会とされたい。事業計画で「職員が取り組むべきこと」を明確にすることで、施設全体の方向性が定まり、職員のモチベーションの維持・向上にも繋がることを期待される。

◆食事内容の改善

成長期の子どもにとって最も大切なことは「楽しく食べる」ことであり、メニューや環境に加えて楽しさを倍増させる要素として「食欲」が挙げられる。食欲をそそる五感である味、匂い、食感、温度、見た目、量などに対する配慮が求められる。また、年中行事等での食事は、季節感や情操を養う役割があり、誕生日等のお祝いと区別した「特別感」を提供することも検討されたい。

◆子どもとの時間の確保

職員と子どもとの関わりは、1対1よりも全体で関わることの方が多い。担当の職員が個別に子どもと関わる時間をできるだけ多く作るなどして、子ども一人ひとりの基本的欲求を聞き取る体制を整備することが望まれる。

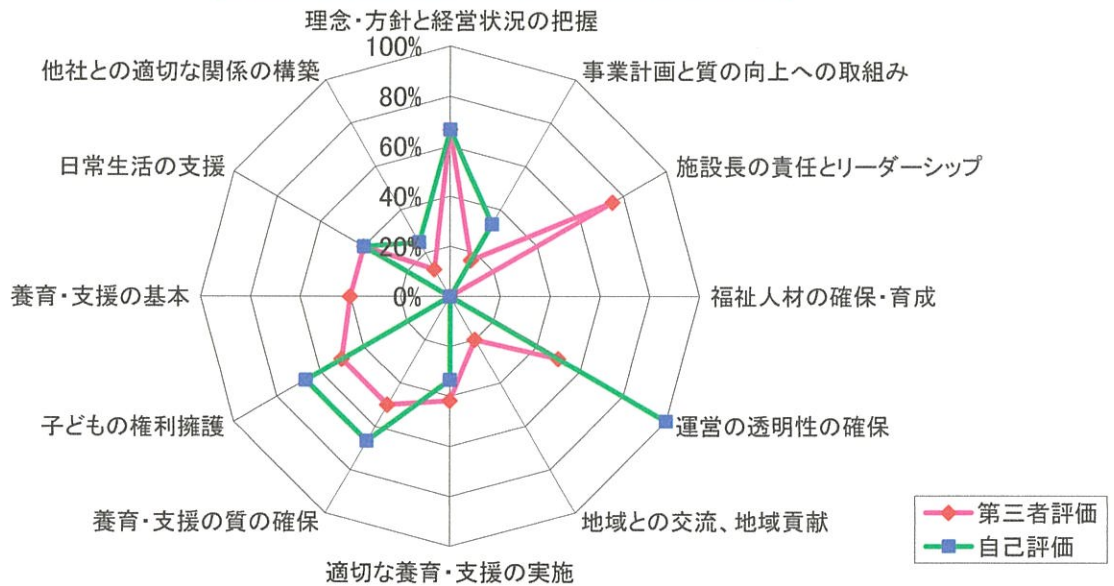
⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回3回目の受審となります。

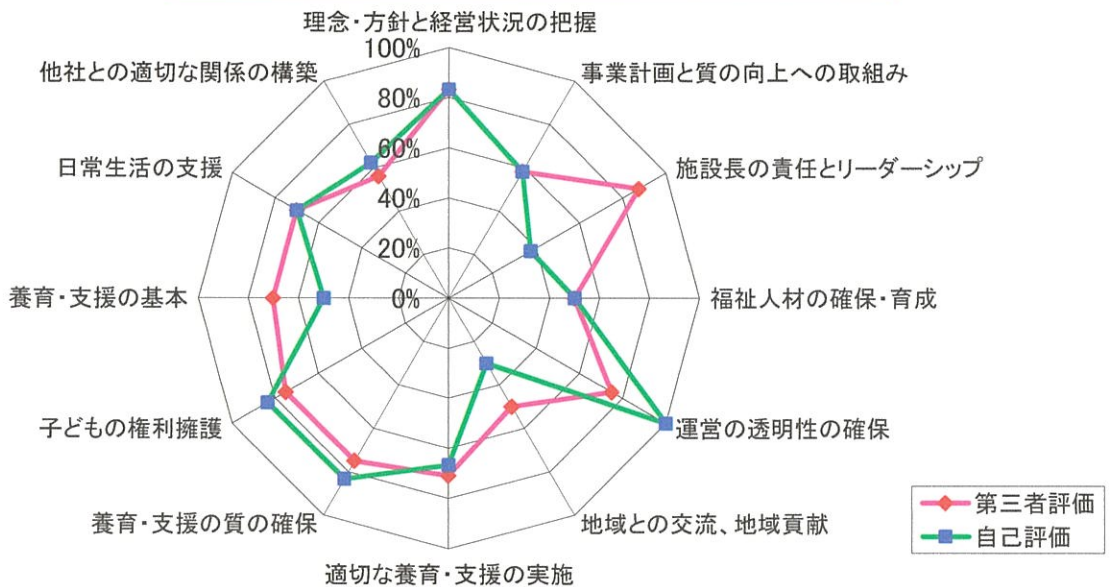
当施設は開設して10年が経過し、前回の時と比べると、子どもたちが成長し、職員も経験を重ねてきたので、雰囲気としては少し落ち着いてきていると思います。施設の運営全般についているいろなご指導、ご助言を賜りありがとうございます。今回の評価結果において、改善すべき点、C評価となった点等まだまだ課題は多いですが、若い職員が多く、職場の雰囲気も明るいので、皆で共有して話し合い、前向きにとらえ、一つ一つ改善したいと考えております。そして、施設の目指すべき子ども像、職員像に近づけるよう取り組んでまいります。

⑨第三者評価結果（別紙）

評価項目数に対してa(出来ている)項目数の割合



評価項目数に対してa+0.5b(ある程度出来ている)項目数の割合



評価項目	第三者評価								自己評価							
	結果数 a	結果数 b	結果数 c	a%	b%	c%	a+0.5b / 項目数	結果数 a	結果数 b	結果数 c	a%	b%	c%	a+0.5b / 項目数		
理念・方針と経営状況の把握	3	2	1	0	67%	33%	0%	83%	2	1	0	67%	33%	0%	83%	
事業計画と質の向上への取組み	6	1	5	0	17%	83%	0%	58%	2	3	1	33%	50%	17%	58%	
施設長の責任とリーダーシップ	4	3	1	0	75%	25%	0%	88%	0	3	1	0%	75%	25%	38%	
福祉人材の確保・育成	7	0	7	0	0%	100%	0%	50%	0	7	0	0%	100%	0%	50%	
運営の透明性の確保	2	1	1	0	50%	50%	0%	75%	2	0	0	100%	0%	0%	100%	
地域との交流、地域貢献	5	1	3	1	20%	60%	20%	50%	0	3	2	0%	60%	40%	30%	
適切な養育・支援の実施	12	5	7	0	42%	58%	0%	71%	4	8	0	33%	67%	0%	67%	
養育・支援の質の確保	6	3	3	0	50%	50%	0%	75%	4	2	0	67%	33%	0%	83%	
子どもの権利擁護	6	3	3	0	50%	50%	0%	75%	4	2	0	67%	33%	0%	83%	
養育・支援の基本	5	2	3	0	40%	60%	0%	70%	0	5	0	0%	100%	0%	50%	
日常生活の支援	5	2	3	0	40%	60%	0%	70%	2	3	0	40%	60%	0%	70%	
他社との適切な関係の構築	8	1	7	0	13%	88%	0%	56%	2	6	0	25%	75%	0%	63%	
合計	69	24	44	1	35%	64%	1%	67%	22	43	4	32%	62%	6%	63%	